

【本校において目指す生徒像】

- ① 確かな学力、論理的・批判的・創造的な思考力や判断力、表現力を持った生徒。
- ② 物事に自立的内発的に取り組むことのできる実践力のある生徒。
- ③ 高いコミュニケーション能力を持った生徒。
- ④ 高い進路目標に向かって邁進する生徒。

【学習指導方針（スクールポリシー）】

- (1) 中高一貫教育校の特徴を生かし、計画的・継続的な指導を通して、学力・学習意欲の向上を図る。
 - ・ 高校卒業時点での到達目標を明確にし、中学から高3までの各段階で身に付けるべき力を中高で共有して、学習内容や学習方法のステップアップを図る。
 - ・ 中高一貫のメリットを生かしたカリキュラム接続を工夫する。
 - ・ 内進生、外進生それぞれの良さを引き出し、切磋琢磨させることで、学力や学習意欲をさらに引き上げる。
- (2) 授業と家庭学習の相乗効果により、基礎・基本となる学習内容の確実な定着を図る。
 - ・ 思考・判断・表現の土台となる知識や技能は、講義や演習、テスト等を通して確実に習得させる。
 - ・ 予習→授業→復習のサイクルを徹底させ、家庭学習を質・量ともに充実させる。
- (3) 思考を揺さぶる学習活動を積極的に取り入れ、「論理的・批判的・創造的な思考力や判断力、表現力」を育てる。また、知識の深化・総合化を図り、自ら課題に向きあい考え抜く「探究力」を育てる。
 - ・ 知識や技能の暗記・再生だけでなく、「論理的に知識を再構成するような課題」「情報を吟味するような課題」「物事を多面的・多角的に考えるような課題」等を指導計画に位置づけ、思考したことを「書く・話す」により表出させる授業を設計する。
 - ・ 単元を総合し、発展させるような課題やパフォーマンス課題を通して、「オープンエンドの問い」に自ら向き合い最後まで考え抜く力を育てる。
- (4) 各教科の特質を踏まえた言語活動を通して、他者と積極的に交流し合意形成のできる「コミュニケーション力」を育てる。
 - ・ グループ学習などの協働学習の手法を取り入れ、他との意見の違いに触れながら、自分の考えや集団の考えを形成・発展させる場面を作り出す。
 - ・ ディスカッションやプレゼンテーション等を通して、「聴く力・訊く力」と「相手に伝わるように話す力」の両方を伸ばす。